

## 2022 年度第 8 回価格審査会の開催について

2022 年度第 8 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、外部の有識者によって、当財団が発刊・公開する定期刊行物等の掲載価格について、その客観性、妥当性の審査を行うものです。

開催日時	2022 年 11 月 15 日(火)
場 所	6 階大会議室
委 員	田中 弘 日本工営株式会社 技術本部 専門顧問 シニアエンジニア 鈴木 由香 株式会社日本設計 コスト設計部長 竹本 康之 東日本建設業保証株式会社 業務部 業務サービス課長 辻 保人 一般財団法人日本建設情報総合センター システム事業部門 コリンズ・テクリスセンター長 早川 和利 東日本旅客鉄道株式会社 東京建設プロジェクトマネジメントオフィス プロジェクト支援ユニット プロジェクト予算 マネージャー(総括)
当 会	共通資材調査部 部長：大澤 勝、次長：小林 法雅 建築調査部 部長：高橋 俊一、次長：島田 理久 監査審査室 室長：今井 豊 調査統括部(事務局) 部長：柴尾 治、課長：本間 哲

2022 年度第 7 回価格審査会議事録(案) 確認

2022 年度第 8 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明
<p>1. 「建設物価」12月号、「Web 建設物価」12月号</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・価格が上伸した資材（工事費） 【Web 建設物価】 セメント（バラ）（札幌市ほか 20 都市）、レディーミクストコンクリート（釧路市ほか 47 都市）、道路用砕石類（小樽市ほか 84 都市）、再生砕石類（小樽市ほか 20 都市）、PHCパイプ（青森市ほか 13 都市）、アスファルト混合物（むつ地区ほか 82 地区）、建築用コンクリートブロック（札幌市）、燃料油（札幌市ほか 9 都市）、鉄スクラップ（札幌市ほか 48 都市）、非鉄スクラップ（札幌市ほか 8 都市）など</li><li>・価格が下落した資材（工事費） 【Web 建設物価】 異形棒鋼（福岡市ほか 6 都市）、鋼板（福井市ほか 6 都市）、一般建築用木材（全国）、鉄（ステンレス）スクラップ（札幌市ほか 34 都市）、非鉄スクラップ（東京ほか 3 都市）など</li></ul> <p>2. 比較資料</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明。</li></ul>

審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
質問 1	レディーミクストコンクリートの練馬・板橋区が値上がりしたが、近隣地区の埼玉県南部地区（さいたま市、川越市）は影響を受けるのか。	埼玉県南部地区と練馬・板橋地区は、埼玉生コン中央協組の販売エリアなので同額上伸となった。生コン協組が異なる場合でも、レディーミクストコンクリートの価格は近隣地区の影響を受ける傾向にある。
質問 2	セメントの販価改定にサーチャージ制を導入すると以前に話題となったが、現在の採用状況はどうか。	太平洋セメントが6月に打ち出したサーチャージ制だが、受け入れたプラントは少ないと聞いている。
質問 3	異形棒鋼の東京地区の価格は変わらずだが、先行き強含みで上伸方向である。一方で、九州地区では逆に値下がりしている。どのような状況か。	原材料の鉄スクラップ価格の弱基調がしばらく続いており製品価格も弱含みとなっていた。こうしたなか関東地区では、電力料金の大幅値上がりを受けメーカー各社が値上げを打ち出したため、価格は変わらず先行き強含みとなった。一方、九州地区では、電力料金の値上げが比較的緩やかであったため、これを理由とするメーカーの値上げ発表はなく、製品市況は弱含み価格は下落。先行きも弱基調となった。
質問 4	再生アスファルト混合物が関東地区を中心に上昇している。関東地区は需給がひっ迫するような状況にあるのか。	関東地区では例年と比較して道路補修工事が活況であった。需要が旺盛な状況下で価格転嫁が進展した。
質問 5	鉄スクラップで上伸と下落の両方に記載されている都市があるが、どのような状況か。	鉄スクラップ分類には価格動向が異なる場合があるステンレススクラップが含まれており、鉄スクラップが下落、ステンレススクラップが上伸となった都市である。
質問 6	レディーミクストコンクリートで『「出荷ベース」契約方式へ商習慣の見直しが交渉中である』との説明があったが、これはどういう内容なのか。商習慣が変わる場合、建設物価における価格の位置づけやタイムラグ等に変更はあるのか。	現行の「契約ベース」契約方式は、契約時の価格を基準とした契約方式である。一方「出荷ベース」契約方式は、出荷時の価格を基準とした契約方式である。そのため、「出荷ベース」契約方式の場合、原材料のコストアップ分を販売価格に連動させやすくなると思われる。「出荷ベース」であっても契約価格を調査することには変わりはないため、価格の位置づけやタイムラグについても変わらないと考えている。

質問 7	<p>異形棒鋼と再生アスファルト混合物の両方に「エネルギー（電力）価格上昇」という値上がり要因のコメントが見られる。これを受け、異形棒鋼は先行きを「強含みの公算が大きい」としているが、もう一方の再生アスファルト混合物は「横ばいの公算が大きい」としている。再生アスファルト混合物で先行きを横ばいとする背景はどのようなものか。</p>	<p>異形棒鋼は鉄スクラップ溶解で大量の「電力」を消費するが、再生アスファルト混合物はプラント稼働に「電力」、加熱に「重油」を使用しており「エネルギー（電力）価格上昇」の影響度は低い。よって「横ばいの公算が大きい」となった。</p>
質問 8	<p>鋼材製品の値上がり理由に「原材料である鋼材の値上がり」との説明があったが、ここ数か月の H 形鋼や異形棒鋼は横ばいである。「原材料である鋼材の値上がり」とはどういうことか。</p>	<p>この鋼材製品は一次鋼材である鋼板を加工して製作する鋼材二次製品である。加工業者が値上がりした一次鋼材を仕入れ、それを加工し販売するため値上がりに時間差（タイムラグ）が生じている。</p>
質問 9	<p>土のう価格の上伸理由に「麻の値上がりによる」との説明があったが、麻の値上がり理由は何か。</p>	<p>麻の主要原産地であるバングラデシュで現地労働者賃金が上昇したことに加え、天候不順による不作不良で生産量が減少したため大幅に値上がりした。また、輸入品であるため昨今の円安も値上がりに影響している。</p>
質問 10	<p>宇治地区の砂利価格が上伸した理由として「設備維持費の確保」とある。「設備維持費の確保」を値上げ理由にあげるのはよくあるのか。</p>	<p>砂利などの市況低迷が長く続いている資材の場合はよくあることである。設備を維持するための設備更新は長年かけて予算確保するのが本来であるが、資金を確保出来ずに設備更新時期を迎えてしまった場合などに散見される状況である。</p>
質問 11	<p>レディーミクストコンクリート市場の捉え方として、現状は旺盛ではないとの解釈でよいか。その場合は各地区協組の値上げ交渉は、工事業者が安定調達を目指すことで成立しているのか。</p>	<p>全国生コンクリート工業組合が発表している出荷量の推移は減少傾向で推移している。都市部では再開発物件等が好調だが出荷量が減少傾向で推移している状況から、全体として需要は旺盛とはいえない。値上げの主な要因は原材料の値上がりである。売り手の販売姿勢が強ければ工事業者は交渉の過程で調達を優先し値上げを受け入れているという状況である。</p>
審議結果	<p>「建設物価」12月号、「Web 建設物価」12月号の価格動向に問題はなかった。</p>	

以上